TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

イエスの7つの「私は…である」私は良い羊飼いである
ヨハネによる福音書 10 章 11－18 節、27－30 節

2026 年 5 月 2 日 & 3 日
神永 譲（ジョエル） 牧師

初めに

TBC 渋谷、スバ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会、TBC 三郷、TBC ウエストトウキョウの兄弟姉妹の皆様にご挨拶いたします。

今週末のメッセージのテーマは、ヨハネの福音書に記されている、イエスの 7 つの「わたしは～である」という宣言です。現在、このシリーズの第 4 回目のメッセージに入っています。私が説教する機会があるときには、このテーマを一つずつ「わたしは～である」という宣言ごとに取り上げていきます。前回は、ヨハネの福音書 10 章 1～10 節を中心に、「わたしは門である」というイエスの宣言について学びました。今回のメッセージでは、「わたしは良い羊飼いである」というイエスの宣言に焦点を当てます。

イエスは次のように語られました：

1. 「わたしは命のパンである」(ヨハネ 6:35)…2025 年 12 月 27 日・28 日
2. 「わたしは世の光である」(ヨハネ 8:12)…2026 年 1 月 31 日・2 月 1 日
3. 「わたしは門である」(ヨハネ 10:9)…2026 年 2 月 21 日・22 日
4. **「わたしは良い羊飼いである」(ヨハネ 10:11)…本日のメッセージ**
5. 「わたしはよみがえりであり、いのちである」(ヨハネ 11:25-26)
6. 「わたしは道であり、真理であり、いのちである」(ヨハネ 14:6)
7. 「わたしはぶどうの木である」(ヨハネ 15:5)

中心聖句：ヨハネによる福音書 10 章 11 から 18 節、27 から 30 節

11 私は良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。
12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。――狼は羊を奪い、また追い散らす。――
13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。
14 私は良い羊飼いである。私は自分の羊を知っており、羊も私を知っている。
15 それは、父が私を知っておられ、私が父を知っているのと同じである。私は羊のために命を捨てる。
16 私には、この囲いに入っていないほかの羊がいる。その羊をも導かなければならない。その羊も私の声を聞き分ける。こうして、一つの群れ、一人の羊飼いとなる。
17 私は命を再び受けるために、捨てる。それゆえ、父は私を愛してくださる。
18 誰も私から命を取り去ることはできない。私は自分でそれを捨てる。私は命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、私が父から受けた戒めである。
27 私の羊は私の声を聞き分ける。私は彼らを知っており、彼らは私に従う。
28 私は彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、また、彼らを私の手から奪う者はいない。
29 私に彼らを与えてくださった父は、すべてのものより偉大であり、誰も彼らを父の手から奪うことはできない。
30 私と父とは一つである。」

祈りましょう。

「I AM（わたしは～である）」の簡単な背景

「I am（わたしは～である）」という表現は、ギリシャ語の「ego eimi」の直訳です。神は旧約聖書の出エジプト記 3 章 13～15 節において、ご自身の名前として明確に**「わたしはある（I AM）」**と啓示されました。これは、モーセがイスラエルの民を奴隷状態から解放し、エジプトから導き出すよう召された時の話です。新約聖書においてイエスがこの同じ名前をご自身に用いるとき、それは文字通り、ご自分を神と同一であるとし、ご自身こそ神であると宣言しています。イエスは明確に、「旧約聖書の『わたしはある』は、今ここにあなたと共におり、あなたに語っているのだ」と語っておられるのです。

羊の特徴

この箇所では、「良い羊飼い」がイエスであり、「羊」は イエスに従う者たちを表しています。聖書の中で神がご自分の民を「羊」と呼んでいる箇所が、およそ 200～220 回あるそうです。もしあなたが神の民の一人であるなら、あなたは神の羊の一匹ということです。また、羊にはいくつか独特で興味深い特徴があるそうです。その中から 4 つを紹介します。

1. 羊はまぬけである

まず第一に、羊はまぬけです。簡単に言えば、馬鹿です。こんな話を読んだことがあります。一匹の羊が崖から足を踏み外すと、続く 1,499 匹もためらうことなく後に続きます。想像できるでしょうか。1,500 匹すべての羊が列をなして崖から落ちていく光景を。やがて高く積み重なっていき、下にいるものは押しつぶされ、上にいるものはまるで柔らかい枕の上にいるかのように休んでいるのです。もし私たちが羊であるなら、私たちもまた何でしょうか？―愚かです。それを認めるのは難しいことですが、確かにそうです。だからこそ、私たちには知恵が必要なのです。
（出典: https://www.challies.com/christian-living/dumb-directionless-defenseless/）

2. 羊は方向感覚がない

第二に、羊には方向感覚がありません。羊はあちこちをさまよい、簡単に迷子になってしまいます。そもそも方向感覚がないのです。地図を読むこともできません。目的地にたどり着くためには、高度なナビゲーションシステムが必要です。もし私たちが羊であるなら、私たちもまた何でしょうか？―方向感覚がありません。それを認めるのは難しいことですが、確かにそうです。だからこそ、私たちには導きが必要なのです。

3. 羊は汚れている

第三に、羊は汚れています。犬や猫のように自分で体をきれいにできる動物とは違い、羊は自分で体を清潔に保つことができません。羊毛にたまる汚れやほこりを取り除くことができません。その結果、皮膚には寄生虫が発生することもあります。それだけでなく、非常

に悪臭を放つこともあります。もし私たちが羊であるなら、私たちもまた何でしょうか？―汚れています。それを認めるのは難しいことですが、確かにそうです。私たちは霊的に汚れています。外側はきれいに見えても、内側は汚れに満ちています。だからこそ、私たちはきよめられる必要があります。

4. 羊は無防備である

そして最後に、羊は無防備です。羊は外敵に襲われても自分を守ることができません。犬はほえることで歯を見せ、敵を威嚇します。ライオンはほえ、その声は約 10 キロ先からも聞こえると言われています。では羊はどうでしょうか？防御手段は何でしょうか？ただ「メェー」と鳴くことしかできず、あとは自分のところに来たら隣のやつが先に食べられるのを望むことだけ、と言われるほどです。もし私たちが羊であるなら、私たちもまた何でしょうか？―無防備です。それを認めるのは難しいことですが、確かにそうです。だからこそ、私たちは守られる必要があります。

つまり、羊は愚かで、方向感覚がなく、汚れていて、無防備です。そして私たちも同じです。これはとても謙遜さを覚えさせられる事実ですね。しかしこれは、神の目から見た私たちの現実でもあります。だからこそ私たちには羊飼い、特に良い羊飼いが必要なのです。

良い羊飼いであるイエス

ここからは、「良い羊飼い」と、その良い羊飼いがその羊たちに対して何をしてくださるのかを見ていきます。ここで使われている形容詞「良い（good）」には、羊飼いであるイエスについての豊かな意味が込められています。それは「高貴であること、称賛に値すること、望ましいこと、そして神に喜ばれること」を意味します（出典：ウォーレン・ウィアーズビー『Jesus in the Present Tense』）。旧約聖書に登場する多くの羊飼いたちは、自分の羊の群れを世話するよりも、自分自身の利益だけを追い求める「悪い羊飼い」でした。それに対して、新約聖書に記されている羊飼い、すなわちイエスは「良い羊飼い」です。イエスは、彼らとは正反対の存在であり、品性においても、また御父への献身においても、完全に異なる方なのです。

1. 良い羊飼いであるイエスは彼の羊である私たちを守られる

11 私は良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。――狼は羊を奪い、また追い散らす。―― 13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。（ヨハネによる福音書 10 章 11－13 節）

羊飼いが良いか悪いかは、どのように見分けることができるでしょうか。それは、その羊に対する献身の度合いを見れば分かります。命の危険がある状況にその羊飼いを置いてみればよいのです。そのとき、彼は羊のために自分の命を差し出そうとするでしょうか。どんな犠牲を払ってでも羊を守ろうとするでしょうか。

良い羊飼いは、羊のために命を捨てるほどに彼らを守ります。なぜそのようにするのでしょうか。それは、彼が羊飼いであり、羊は彼のものであり、彼が羊を心から大切にしているからです。これは雇われ人には当てはまりませんが、良い羊飼いには当てはまります。一方で雇われ人は、羊を守りません。狼が群れに近づいてくるのを見ると、彼は逃げてしまいます。なぜでしょうか。彼は羊飼いではなく、羊を所有しているわけでもなく、羊を大切に思っていないからです。羊に対する「当事者意識」も、羊飼いの献身を左右する大きな要素です。羊飼いは危険が起こると羊と共にとどまりますが、雇われ人は羊を見捨て、何が起こっても気にかけません。もしあなたが自分の働きやミニストリー、小グループに対して当事者意識を持っていないなら、あなたは雇われ人のように振る舞っています。問題が起これば逃げ、困難が来ればあきらめ、不平を言い、他人のせいにします。同じように、結婚や家族、友情に対して当事者意識がなければ、対立が起こったときに関係から離れてしまう可能性が高いでしょう。あなたは自分の人間関係にどれほど献身しているでしょうか。

しかし、当事者意識を持っているなら、あなたは自分が世話をしている人々に深く献身します。そして、良い羊飼いであるイエスが私たちのために喜んでご自分の命を捨て、そして勝利のうちによみがえられたように、あなたもまた彼らのために命を捧げる覚悟を持つべきなのです。

17 私は命を再び受けるために、捨てる。それゆえ、父は私を愛してくださる。18 誰も私から命を取り去ることはできない。私は自分でそれを捨てる。私は命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、私が父から受けた戒めである。

2. 良い羊飼いであるイエスは、ご自身の羊である私たち一人ひとりを知っておられる

14 私は良い羊飼いである。私は自分の羊を知っており、羊も私を知っている。15 それは、父が私を知っておられ、私が父を知っているのと同じである。私は羊のために命を捨てる。（ヨハネによる福音書 10 章 14－15 節）

聖書において「知る」というのは、親密さや、その人や対象に対する深い理解を含んでいます。それは選ばれていること、愛されていることを意味します。元のヘブライ語では、この「知る」という言葉は、夫婦の間の親密な愛を表す言葉としても用いられています（出典：ウォーレン・ウィアーズビー『Jesus in the Present Tense』）。したがって、「知る」という言葉は、単にその人の名前や住所、職業を知っているという以上の意味を持っているのです。

例：夫婦は互いをよく知っている

私の妻シンシアと私は、長年の結婚生活を経て、これまでになくお互いをよく理解するようになりました。彼女は私の好みや、家で何をするのが好きか、そして私を笑わせるためにどんな冗談を使えばよいかまで知っています。一方で私はというと、まだ彼女について学ぶべきことがたくさんあります。それでも、彼女について100%分かっていることがいくつかあります。例を挙げてみましょう。彼女はオンラインショッピングが好きで、しかも以前の購入者のレビューを必ず読むのです。私にも同じようにするよう勧めてきますが、私はあまりそうしません。もう一つの例は、冷蔵庫の開け閉めに関することです。私の場合、ジュースのボトルのようなものを取り出したいとき、冷蔵庫を開けてボトルを取り出し、そのまましばらくドアを開けておいたままにして、コップに注ぎ、ボトルを戻してからドアを閉めます。ところが彼女は、何かを取り出したらすぐにドアを閉めます。そして戻すときにもう一度開け、入れたらまた閉めるのです。ご想像のとおり、私はまだ学びの途中にあります――言うならば、聖化の過程にあるのです。

新約聖書当時の羊の囲いは共同のもので、複数の群れが同じ囲いの中で過ごしていました。そして、それぞれの群れにはそれぞれの

羊飼いがいました。そのため、ある群れの羊が別の群れの羊と混ざってしまうこともあったと考えられます。しかし、イエスはご自分の羊を知っておられます。一匹一匹の名前を知っておられます。そして、それぞれの性格や状態もご存じです。迷いやすい羊、自分の道を行きたがる羊、歩くのが速い羊や遅い羊、従う羊もいれば従わない羊もいます。そのようにすべてをご存じでありながら、良い羊飼いは羊を愛しておられます。そして、ご自分の羊をはっきりと見分けることができるのです。あなたは、東京での日々の忙しさの中で、自分を見失ってしまっていませんか。誰にも気づかれていないと感じることはありませんか。しかし覚えていてください。もしあなたがイエスに従う者であるなら、あなたはイエスのものです。イエスはあなたのすべてを知っておられ、あなたを深く心にかけておられるのです。

しかし、羊の側も自分の羊飼いを知っています。もしあなたがその羊たちの羊飼いでなければ、どれほど何度も、どれほど大声で呼んでも、たとえ叫んだとしても、羊たちはまったく注意を払いません。ただ無視するだけです。しかし、もしあなたが本当にその羊たちの羊飼いであるなら、彼らはあなたの声を聞いた瞬間に、たとえ何をしていたとしても、あなたのもとへ来て、ついて来ます。

例え：本当の羊飼いの呼びかけ

私は、野原で羊の群れが青々とした草を食べている様子の動画を見たことがあります。約 100 メートル離れたところから、4 人の人が一人ずつ羊を呼びます。最初の 3 人が呼んでも、羊たちはまるで聞こえていないかのように、食べ続けています。しかし、4 人目の人が呼んだとき、羊たちは一斉に動きを止め、その羊飼いのほうへ向かっていきました。そして、その後について行ったのです。なぜでしょうか。それは、羊たちが自分の羊飼いの声を知っているからです。

あなたは、イエスを自分の個人的な羊飼いとして知っているでしょうか。イエスがあなたを呼ばれるとき、その声を聞き分けることができるでしょうか。

もう一つ、この点において大切なことがあります。良い羊飼いと羊との親密な関係、すなわちイエスと私たちとの関係は、父なる神と御子との親密な関係に似ています。イエスはこう言われました。「…父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているように。」このように、イエスがご自身と私たちの関係を、父と御子との関係になぞらえて語られたことは、非常に驚くべきことです

3. 良い羊飼いとしてのイエスは、ほかの羊をも探し求められる

16 私には、この囲いに入っていないほかの羊がいる。その羊をも導かなければならない・その羊も私の声を聞き分ける。こうして、一つの群れ、一人の羊飼いとなる。

イエスは、今この囲いの中にいない羊がいること、そしてその羊たちをも導かなければならないと語られます。イエスが呼びかけるとき、彼らはその声に聞き従います。その結果、「一つの群れ」が「一人の羊飼い」のもとに集められるのです。つまり、イエスの導きのもとにある、唯一の教会（キリストの体としての「教会」）を意味しています。ここでイエスは「一つの組織」とは言わず、「一つの群れ」と言われました。この「一つの群れ」とは、歴史を通してイエスに従ってきたすべての人々を指しています。

では、この囲いの中にすでにいる羊と、まだ囲いに入っていない羊とは誰のことでしょうか。このたとえの文脈では、イエスはユダヤ人に向かって語っておられます。したがって、この囲いの中にいる羊とはユダヤ人のことを指しています。それに対して「ほかの羊」とは、異邦人、すなわちユダヤ人以外の人々を意味します。良い羊飼いであるイエスは、この「ほかの羊」をも探しに行かれます。私たちが今日ここにいて、イエスに従う者となっているのも、イエスご自身が私たちに手を差し伸べ、ご自身のもとへ導いてくださったからなのです。

キリストにある神の救いのご計画は、特定の民族や人々に限定されるものではありません。同じ文化や言語を共有する人々だけのものでもありません。また、同じ宗教的背景や政治的考えを持つ人々に限られるものでもありません。キリストにある神の救いは、すべての人に開かれているのです。この点は、ヨハネの福音書全体の文脈の中でも、ヨハネ 3 章 16～18 節のメッセージと一致しています。

16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。18 御子を信じる者は裁かれない。信じない者はすでに裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。

ここで重要な問いは、「イエスはどのようにして、ほかの羊を探し求められるのか」ということです。ヨハネの福音書を見ると、イエスは復活された後、弟子たちに現れ、こう言われました。

21「あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」（ヨハネによる福音書 20 章 21 節）

例え：渋谷でのアウトリーチ

約 1 か月前、アメリカのサウスクリフ・バプテスト教会から宣教チームをお迎えしました。渋谷駅周辺でのアウトリーチ活動の際、約 15 人（サウスクリフのメンバー10 人と、私たちの教会 TBC の 5 人）が、3～4 人ずつの小グループに分かれました。私は、サウスクリフの 3 人のメンバー、年配のご夫婦と大学を卒業したばかりの若い女性と一緒のグループになりました。

祈りながら歩いている中で、私たちは 2 人の高校生の女の子に声をかけました。自己紹介をした後、私たちがクリスチャンであること、その週末にイースターをお祝いすること、そして TBC で英会話カフェを開くことを伝えました。そして、何について祈れるかを尋ねました。すると、驚くほど心を開いて話してくれました。1 人の女の子は、前日に彼氏に振られたばかりだと言いました。私たちは皆、その子のことをとても気の毒に思いました。しかしそれは、ただ祈るためだけでなく、何よりも福音を分かち合うために神さまが用意された機会でした。結果として、その場でイエス・キリストを信じる決心には至りませんでしたが、主が私たちを通して彼女たちに手を差し伸べる機会を与えてくださったことを心から感謝しました。そして、いつの日かイエスが彼女たちをご自身の群れへと導いてくださることを信じています。

私たちは、イエスの手であり、足であり、口です。イエスは、私たちが

ご自身の使命に従うことを通して、「ほかの羊」を探し求められます。**「父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」**

5 月 8 日・9 日のアウトリーチ

数日後の 5 月 8 日と 9 日に、私たちは東京でアウトリーチを行います。主がご自身の群れにさらに多くの羊を導かれるために、私たちを恵みの器として用いてくださるよう、ぜひご参加いただきたいと思います。

まとめ

イエスはこう言われました。[27] **私の羊は私の声を聞き分ける。私は彼らを知っており、彼らは私に従う。[28] 私は彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、また、彼らを私の手から奪う者はいない。[29] 私に彼らを与えてくださった父は、すべてのものより偉大であり、誰も彼らを父の手から奪うことはできない。[30] 私と父とは一つである。（ヨハネによる福音書 10 章 27－30 節）**

最後に、イエスのこれらの力強い言葉をまとめたいと思います。要するにイエスはこう語っておられます。「わたしとわたしに従う者たち、深く結びついている。わたしたちは互いを深く知っている。彼らは父とわたしのうちにあって永遠に守られている。なぜなら、わたしたちは一つだからである。」

これまで見てきたように、良い羊飼いであるイエスは、私たちを守り、私たちを知り、そしてほかの羊を探し求めておられます。ここで一つのシンプルな問いがあります。イエスは、すでにあなたの羊飼いでしょうか。もしそうであるなら、その深い愛に励まされてください。もしまだそうでないなら、その呼びかけに応答しませんか。今、イエスの声が聞こえているでしょうか。それを否定しないでください。無視しないでください。後回しにしないでください。あなたにできる最も良いことは、イエスを信じ、そして従うことによって応答することです。どうかイエスのもとに来てくださいと、心から願っています。

お祈りしましょう。

神永 譲（ジョエル）
東京バプテスト教会
2026 年 5 月 2、3 日

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/s1826jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 101
教会員になるためのクラス
5 月 17(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 402
キリストの伝え方
5 月31(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

全クラス申し込み：
https://t-b-c.us/classes